

東中国山地自然環境調査報告：222.

塚本珪一・岸井 尚・小山 貢，1960. キンイロネクイハムシに関する2・3の知見. あきつ 9(1): 17-21.

八木 剛，1991. ネクイハムシ類の産卵習性及び卵形態について. Donacist (4):9-14.

猪名川町周辺のツシمامツボシタママムシ

森 和 夫

ツシمامツボシタママムシ *Chrysobothris samurai* OBENBERGER は、初夏の頃にクリやナラ、カシ類の枯枝や伐採木等が集まるが、産地が限定され、個体数も多くないようである。今回、筆者は、下記のように猪名川町周辺で、本種を採集することができたので報告する。

〈採集データ〉

①大阪府能勢町^{さいが}才の^{かみ}神峠 (alt. 410m, 三草山の西中腹で猪名川町との境から400m程の所)

19-VI-1988, 2 ♀

②兵庫県猪名川町猪淵の南西 (alt. 190m, 宝塚市切畑との境界付近)

8-VI-1991, 1 ♀

③兵庫県猪名川町^{すどう}杉生^{しんてん}新田 (alt. 450m)

9-VI-1991, 10♂ 5 ♀

15-VI-1991, 2 ♂ 4 ♀

ツシمامツボシタママムシは、以前は、対島特産種と考えられていたそうであるが、最近では九州や本州に産することが知られている。当地の近くでは、岡山県の北部山地帯に産することが知られ(岡山県の昆虫：1978年，倉敷昆虫館発行)，また、奈良市春日山や大阪府豊能町で採集された話を聞いたことがあった。従って、兵庫県内にも当然産するものと考えられるが、筆者は情報量が少なく、確かめられなかった。また、猪名川町から能勢地方にかけての昆虫相は、仲田元亮氏の「能勢の昆虫」(1982年)によくまとめられているが、当書にもツシمامツボシタママムシは、報告されていない。

なお、本種には、6紋型と4紋型が知られており、産地によってその割合が異なるとのことである

ため、今回採集したものを調べてみた。この結果は、次表の通り、ここで発生率は、ほぼ同等であった。

	採集地	6 紋型	4 紋型
①	才の神峠産	1 ♀	1 ♀
②	猪淵付近産	1 ♀	
③	杉生新田産 (9 - VI - 1991)	4 ♂, 3 ♀	6 ♂, 2 ♀
④	〃 (15 - VI - 1991)	1 ♂, 3 ♀	1 ♂, 1 ♀
	合 計	5 ♂, 8 ♀	7 ♂, 4 ♀
		13exs	11exs

今回の採集日は、いずれも晴天で気温の高い日であった。道端に積まれている^{たぐ}菜に止っていたが、近付くのを察知され逃げられた個体も多かった。従って、上記の比率も多少は誤差があるものと考えられる。

また、当地の周辺では、同様な環境で、ムツボシタマムシ *Chrysobothris succedanea* E. SAUNDERS も得ることができるが、著者のデータでは、両種を同時に採集することができた場所は、杉生新田の1ヵ所だけであり、それも、ツシマムツボシタマムシ21頭に対しムツボシタマムシは1頭だけであった。

両種の間に住み分けのようなものがあるかもしれないと思ったが、今のところ生息環境等に差を見出せなかった。

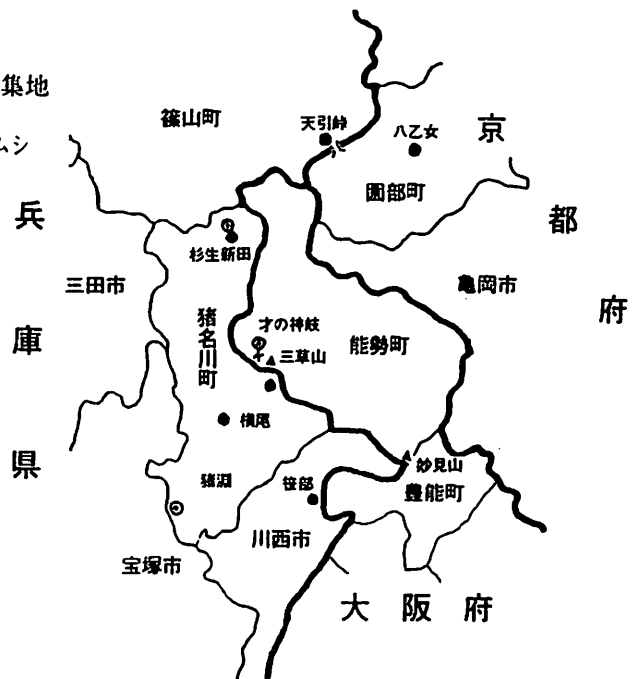
猪名川町周辺における

2種のムツボシタマムシ採集地

(注)

◎; ツシマムツボシタマムシ

●; ムツボシタマムシ



参考までに、ムツボシタママシのデータも報告しておきたい（筆者採集分のみ）。

〈ムツボシタママシ採集データ〉

- ①兵庫県川西市笹部；21-VI-1970, 1♀. 26-VI-1983, 2♂1♀. 1-VI-1983, 1♀. 12-VII-1985, 1♀.
- ②兵庫県猪名川町横尾；12-VI-1983, 2♂1♀.
- ③兵庫県猪名川町三草山南腹；15-VI-1975, 1♀. 17-VI-1990, 1♂. 15-VI-1991, 1♀.
- ④兵庫県猪名川町杉生新田；15-VI-1991, 1♀.
- ⑤兵庫県篠山町天引峠；18-VI-1988, 1♀.
- ⑥京都府園部町八乙女^{はつとめ}；3-VI-1988, 1♂. 26-VI-1988, 1♀. 13-VI-1991, 1♀

（付記）ツシママツボシタママシは兵庫県下で次の様な記録地があるので付記しておく。

宍粟郡波賀町戸倉〔大平, 1982〕. 美方郡温泉町蒲生峠〔谷角, 黒井, 1986〕.

（高橋）

川西市見野にてトラフカミキリ採集

森 和 夫

見野地区は、川西市の北部にあって、能勢電鉄山下駅から南西側に拡がり、南北及び東西が各々7～800m程の小さな盆地である。

この地区は、古くから農業が中心であったと考えられ、上ノ田、不毛ノ谷、大根畑など農地に関する^{あご}字（地名）が多い。自然林らしいものは、市杵島神社の境内にわずかに残っている程度であったが、今では宅地化が進んでいて、農地は減少し、河川も汚れてきている。筆者自身も1982年に当地に居住するようになったが、地区内には興味を引くような所は無かった。

ところが、当時、小学1年生であった、近所の中村尚平君と豊田啓啓君の2人が、名前を教えてほしいと言って持って来た虫が、トラフカミキリ *Xylotrechus chinensis* CHEVROLAT であった。さっそく、採集場所へ案内してもらったところが、山下駅に近い幼稚園であった。この園内の桑の老木に発生していた。捜してみると樹幹や枝にじっと止っていて、筆者自身も4頭を採集することができた。この桑の木は、園児達に実を取らせたいと考え、園長先生が植えられたものだそうであり、幹の各所